

竹里館（王維）

独り 坐す 幽篁の 裏

弾琴 復 長嘯

深林 人 知らず

明月 来つて 相 照らす

獨坐幽篁裏 彈琴復長嘯
深林人不知 明月來相照

解説 人里はなれた竹林の奥の自然の楽しさをうたった詩。

語釈 ※竹里館 竹林の中にある離れ座敷の名。王維の所有。

※幽篁裏 奥深く静かな竹藪の中。※長嘯 口をすぼめて声を長く引いて詩を詠うこと。長吟と同意。※深林人不知 琴を弾いたり、詩をうたつたりする深林の中の楽しさをだれも知らない。

※相照 互いに照らす。

通釈 奥深くもの静かな竹藪の中に、私はただ一人坐して、琴を弾いたり、また声を長く引いて詩を詠つたりしている。深い林のこととてだれも知らないが、天上の明月だけは、この林の奥まで光を差し込んで私を照らしてくれている。